

■藤原秀衡 武将。奥州藤原氏3代。陸奥の支配を続けるうち、源義経を保護し、死後、滅亡の道につながった。

ふじわらのひでひら
・ ・ ・ ・ ・ 1122＝ 生。父は2代藤原基衡。母は安倍宗任の娘。

鳥羽院政始・ 1129＝ 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1131＝ 9歳：

西行出家・ ・ 1140＝18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1149＝27歳：

頼長内覧停止1155＝33歳：泰衡誕生。

保元の乱・ ・ 1156＝34歳：

藤原基衡没・ 1157＝35歳：*父基衡が死去、家督を相続し、奥州6郡を統括、出羽・陸奥国の押領使に就任。

後白河院政始1158＝36歳：

平治の乱・ ・ 1159＝37歳：*陸奥に流されてきた<平治の乱>首謀者藤原信頼の兄民部少輔基通(基成)の娘を娶り、高館に住まわせる。

・ ・ ・ ・ ・ 1160＝38歳：娘(もしくは妹)が陸奥石城郡白水に阿弥陀堂を建立。

清盛太政大臣1167＝45歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1170＝48歳：鎮守府将軍に任じられる。従五位下。

・ ・ ・ ・ ・ 1174＝52歳：この年から、源義経の保護者になり、

・ ・ ・ ・ ・ 1176＝54歳：この年、藤原範季が陸奥守、ついで鎮守府将軍に任ぜらる。

鹿ヶ谷の変・ 1177＝55歳：この年、<鹿ヶ谷の変>、

治承のクーデタ 1179＝57歳：この年、平重盛死去。

源氏一斉蜂起1180＝58歳：この年、以仁王ひそかに平氏追討の令旨を諸国の源氏に伝え、源頼朝が伊豆で、源義仲が木曾で挙兵。源義経が黄瀬川で頼朝にあう。東海・東山・北陸三道に勅して頼朝を追討せしめ、秀衡が頼朝追討の請文を提出したとの情報が流れる。

平清盛没・ ・ 1181＝59歳：この年、平清盛が死去。秀衡2万の軍勢をひきいて白河関を越え、武相の武士が皆頼朝に背くとの風説が流れる。秀衡を陸奥守に、城資永を越後守に任じて、東国・北国の源氏を討たしめ、城資永、義仲を討たんとして急死。秀衡、平軍加担の領状を進む。陸奥守、従五位上となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1182＝60歳：この年、義仲、城永用(資職)を信濃に破る。

後鳥羽天皇・ 1183＝61歳：この年、義仲砥波山に平軍を破って大勝。平氏西海に逃れ、義仲入京。頼朝は、秀衡・佐竹隆義らが鎌倉をはかるおそれありと入京を拒否。秀衡が義仲とはかつて頼朝を攻めるとのうわさが流布。頼朝5万の兵をひきい遠江に進出、秀衡数万の兵をひきいて白河関を越ゆと聞き、しばらく形勢を観望。義仲が頼朝追討の院宣を秀衡に伝える。義仲追討のため義経らが上落との報に、義仲が平氏と休戦しようと宗盛に提議する。

・ ・ ・ ・ ・ 1184＝62歳：この年、義仲征夷大將軍となるも、近江に敗死。東大寺減金料として頼朝千両、秀衡5千両の献上を諒承。

平氏滅亡・ ・ 1185＝63歳：*頼朝が義経を義絶して義経の叛意明らかとなり、頼朝に迫われた源義経を再び保護。行家・義経に、頼朝追討の院宣が下る。義経大物浜より西国に向わんとして破船し、姿をくらます。頼朝に義経・行家追討の宣旨が下る。守護・地頭の設置が勅許となる。秀衡、院に物を進む。

九条兼実摂政1186＝64歳：頼朝のすすめで、鎌倉経由で貢馬・貢金することを諒承するなど、表面的にはその勢力下に入るが、

藤原秀衡没・ 1187＝65歳：*秀衡が義経に与同すると鎌倉に報告される。平氏をはかつて、陸奥に流されていた前山城守基兼を召使い、帰京せしめずにいたところ、その不当を頼朝に責められ、義経を匿うことを非とする院宣が下り、書によって基兼のことにつき弁明後、没した。義経を大将に泰衡・国衡ら結束すべきことを遺言。